



さなぎの猫

CAT PUPA

監督・脚本 野村有志

日本 / 2022年 / 88分 / カラー / ステレオ / 日本語

英語字幕あり / DCPあり

SF/ドラマ/コメディ/インディペンデント映画

製作 U.M.I Film makers

共同製作 オパンボン創造社

プレスキット 2026 / 日本語版



映画『さなぎの猫』

ログライン

日本の離島。謎めいた女性との出会いから、島の静かな日常が少しずつ揺らぎ始める。

イントロダクション

瀬戸内海に浮かぶ小さな島・佐柳島（さなぎじま）を舞台にした『さなぎの猫』は、非日常的な出来事が大仰なスペクタクルを伴わず、日々の暮らしの中へ静かに入り込んでいくSFドラマです。

実在する島の風景と生活のリズムを背景に、SF、メランコリー、乾いたユーモアを交えながら、「どこで生きるのか」「何を居場所とするのか」、そしてその選択が人をどう変えるのかを静かに見つめます。

あらすじ

多くの猫が暮らすことで知られる瀬戸内海の静かな島・佐柳島。靖はこの島で暮らしている。

ある日、靖は全身ずぶ濡れで島をさまよう謎の女性・花子と出会う。花子は、海に落としてしまった「鞆」を探してほしいと靖に頼む。

一方、靖の幼なじみ・千佳は、夫の清とともに島へ戻ってきていた。浜辺で二人は奇妙な丸いカプセルを発見する。その中には、信じられないほど大量の現金が入っていた。

探し物をきっかけに4人が関わり合うようになり、それぞれが島に抱く思いが少しずつ見えてくる。

孤島で起きた小さな異変はやがて、居場所や変化、そして故郷をめぐるSFへと静かに広がっていく。

未知との静かな遭遇

作品について

『さなぎの猫』の中心にあるのは、「居場所」という問いです。

人にとって、どこが「生きるのにふさわしい場所」なのか。

島に残った靖。島を離れ、別の場所で暮らしてきた千佳。よそ者として島にやってきた清。そして、どこにも属していない花子。

謎のカプセルから無限に生み出される札束——それは、今の暮らしを一変させるかもしれない誘惑として島の人々の前に現れます。けれど本作が描くのは、カプセルの正体や力そのものではありません。それを前にしたとき、人が何を欲し、何を守ろうとし、何に不満を抱くのか。非日常的な出来事を通して、それぞれのごく日常的な感情や選択が浮かび上がってきます。



映像表現

『さなぎの猫』は佐柳島でロケ撮影を行い、実際の島の風景や暮らしそのものをSFの舞台として撮影しています。

家々、細い路地、海岸、神社、猫、夜空。見慣れた島の日常はそのままに、そこへ説明のつかないものが少しずつ紛れ込んでいきます。島そのものが「いかにもSFらしい世界」へ変わることはありません。

地球の運命を左右するような大事件は起きず、謎を解き明かす巨大な組織も現れません。あくまで島で暮らす人々の目線のまま進んでいきます。

日常の延長線上に異物が現れたとき、人々はそれをどう受け止めるのか。『さなぎの猫』では、そんな距離感でSFを描いています。

監督コメント / 野村有志

「本作の舞台は、多くの猫が暮らす佐柳島です。

人生の中で、自分に合った居場所を探している人に、少しでも勇気を届けられたらと思います。」



主な国際映画祭実績と上映・配信

主な映画祭

Wallachia International Film Festival / ルーマニア - 2024

最優秀SF映画賞

Amur Autumn Film Festival / ロシア - 2024

映画祭招待上映

Minsk International Film Festival Listapad / ベラルーシ - 2023

正式上映

上映・配信

EMIRATES AIRLINES - 2024-2026

機内エンターテインメント作品として採用

Apple TV

デジタル配信

Amazon Video

日本・米国・英国でデジタル配信

Grindhouse / イスラエル

ヘブライ語字幕版をストリーミング配信



GRINDHOUSE MAGAZINE / イスラエル

2025年8月

2025年8月、イスラエルの映画配信・批評プラットフォーム Grindhouse に、『さなぎの猫』を論じる長文批評が掲載されました。

記事では花子を、ピエロ・パオロ・パゾリーニ監督『テオレマ』に登場するアウトサイダー（行動ではなく、存在自体によって周囲の人々を変えてしまう謎めいた人物）になぞらえています。

また『Pupa（蛹）』を、「以前の自分ではなくなったが、まだ次の姿にもなっていない」移行期にある人物たちの比喻として読み解いています。佐柳島もまた、隔絶され、変化の途上にある共同体として重ねられ、日常を保ったまま異質な存在を受け入れていく場所として位置づけられています。

そして本作を、宇宙からの侵略も、政府の介入も、派手なスペクタクルもない、静謐なSFとして評価しています。

続編批評 / 2026年6月

約1年後、Grindhouseは再び『さなぎの猫』を取り上げ、今度はイマヌエル・カントの「美」と「崇高」を手がかりに作品を読み解きました。

記事では、島の穏やかな風景や日常の中にある「美」と、そこには収まりきらない異質な存在としての花子を対比。理解や説明の枠からこぼれ落ちるものに触れたときに生まれる感覚を、「崇高」という視点から捉えています。

そして、花子の正体や島で起きる出来事を最後まで説明しきれない本作の構造そのものが、その感覚を生み出していると論じています。

謎を解消するのではなく、理解できないものを理解できないまま残すこと。

それを欠点ではなく、本作の重要な表現であり、誠実な作家性の表れであると評価した批評です。

『さなぎの猫』はGrindhouseにて、ヘブライ語字幕付きでイスラエル向けに配信されています。

Letterboxd に寄せられた海外の反応

2024年の海外配信開始以降、Letterboxdには『さなぎの猫』への観客レビューが継続して投稿されています。撮影、独特のトーン、島の空気感、そして「居場所」というテーマに触れたものが目立ちます。



NEUROMANTIC86 - 2024年12月

「incredibly well shot（非常によく撮られている）」と映像を評価。風景の美しさ、靖のシリアスさとコメディのバランス、そして「居場所のなさ」「自分だけが異物のように感じる」というテーマに強く反応しています。

MANINBLACK - 2024年2月

本作を、故郷、義務、そして人は自分に相応しい居場所を探すべきなのか、という問いを描く型にはまらないSFとして捉えています。

UNIT ❀ - 2026年1月

ゆっくりとしたリズムと島の空気感に反応し、作品世界のような穏やかな時間を過ごしたいという感想とともに、「My soul loved it.（私の魂がこの作品を好きになった）」と記しています。

DRUNK_SALARYMAN - 2026年6月

現金を生み出すことのできる鞆がもたらす誘惑と、花子の存在によって生まれる罪悪感との対比に注目しています。

レビューの切り口はさまざまですが、共通して浮かび上がるのは、居場所と変化、そして「ここ、そしてここではないどこか」への思いです。

その答えは一つではなく、観客の数だけ存在しているのです。

『さなぎの猫』 キャスト・スタッフ



CAST

浅雛拓 - 靖
鳩川七海 - 花子
一瀬尚代 - 千佳
野村有志 - 清

MAIN STAFF

監督 / 脚本 - 野村有志
撮影監督 / 編集 / 製作統括 - 武信貴行
助監督 - 樫原大和 / 林知明
撮影 - タニガワヒロキ
照明 - 竹田和哲
音響 - 浅葉修
音楽 - 浜間空洞
美粧 - KOMAKI
造形 - 久太郎
宣伝美術 - 勝山修平
撮影記録 - 緒花
制作進行 - 篠原ひなた / 三坂恵美
現地協力 - 坂川桃香

作品仕様

日本 / 2022年 / 88分 / カラー / ステレオ / 日本語
画面比率 - 16:9
映倫 - No. 124178 / G
英語字幕あり
中国語字幕あり
DCP - あり

製作 / 配信

製作 - U.M.I Film makers
共同製作 - オバンボン創造社
デジタル配信エージェント - Filmination

CONTACT

U.M.I Film makers
umifilm@yahoo.co.jp

武信貴行
takenobutakayuki@gmail.com

公式サイト
www.umifilm.com

『さなぎの猫』 公式ページ
www.umifilm.com/catpupa